

1. 件名：使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価に係る面談
2. 日時：令和5年6月26日（月）15時00分～16時15分
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁 原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
佐藤室長補佐、新井安全審査官、椎名係長、植木技術参与
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当1名（Web会議システムによる出席）
福島第一原子力発電所 担当3名（Web会議システムによる出席）

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づき、使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）（以下「第三施設」という。）の耐震評価について説明があった。

○原子力規制庁から、説明を受けた内容について主に以下コメント等を伝えた。

- 第三施設を耐震Sクラス施設に分類する際は、Ss900に対する機能維持評価のみではなく、地盤の安定性や弾性設計用地震動に対する設計方針など、Sクラス施設に要求される項目全般について網羅的に評価すること。
- 解析モデルについては、実機における各部の名称がわかるように指し示すとともに、解析モデル図において、接触条件、拘束条件又は間隙とする範囲をそれぞれ明示すること。
- 解析モデルにおける最端部のボックスカルバート（以下「BC」という。）内の土嚢、BC底部の緩衝材、高性能容器（以下「HIC」という。）と鋼製架台の滑り面の接触条件等の取扱いを示すこと。その際に、BC連結ボルトをモデル化しない理由とその妥当性を示すこと。
- BC群とHIC内容物の固有周期が同程度の場合でも、HIC内容物をばね-質点系でモデル化する解析モデルに加えHIC内容物を固体として扱った評価も実施すること。
- 第三施設の地表面における地震動とその算出過程を示すこと。
- 連結していない東側BC（9列×4列）と西側BC（9列×4列）の隣接状況を示すとともに、地震時における相互影響の有無について検討すること。

○東京電力ホールディングス株式会社より、上記コメントについて了解した旨の回答があった。

6. その他

資料：

- 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）のSs900耐震評価について

関連ページ：

- [福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会](#)

以上